

第52期 修了式 式辞

本日は、枝廣福山市長のご出席、熊谷市議会議長、多田市老連会長、池口元老大学長、高橋元学長を始めとするご来賓・講師の先生のご臨席、多くの学生の皆様のご出席を得て、3年ぶりに福山市老人大学 第52期修了式が挙行できますことに安堵し、大変嬉しく思っております。

学生の皆さん この1年間、良く頑張って老大に通い学びを続けて来られました。いよいよ第52期の修了式です。本当におめでとうございます。

この3年間、新型コロナウイルスは猛威を振るい、人々は甚大な被害を受けてきました。こうした中、私たちの老大もまた、休講や規模の縮小を余儀なくされるなど、厳しく影響を受けてきました。

2年前の第51期、私はコロナ禍の老大運営として、密を防ぐために、普通教室の定員を40人から27人に削減するなど、第50期と比べ計約1200人の定員減で募集をしました。結果は、さらに、入学生の定員に対する充足率がそれまでの約80%から68%へと下がり、何年にも亘って2600人を超えていた学生数は一気に1500人を割り、大きく減少することになりました。

高齢者やそのご家族の方は感染することへの不安から通学をためらわれ、またその結果、外出自粛が長期化し、いざ老大へという時になって体力・気力がおぼつかなくなってしまっていた、というようなケースがかなりあったのではないかと推測しています。残念でなりません。

この間、通学してきた学生の皆さんには感染防止対策として、検温、不織布マスク、手洗い、消毒、換気などをお願いしてきましたが、とても協力的に取り組んでいただきました。皆さんは、日常的にも感染予防に気を付けられ、元気に通って来られました。私は出来るだけ、登校してくる学生に声を掛けてお迎えするよう努めてきましたが、皆さんの方から「学長さん おはよう 今日は寒いね 気を付けんさいよ」などと声を掛けてくださいます。授業中に教室を廻ってみると「ええ

ように描けとるじゃろう。もう10年やっとるけえな」「学長さんも入って一緒に歌おうや」などと、元気に話してくださいませ。

昨年末から老大有で教育実習をした看護専門学校生は、実習後、次のようなレポートを送ってくれました。「老大有の皆さんは、とても元気で明るく、イキイキされていました。私がイメージしていた高齢者とは違っていました。「みんなと会えるからここにきている」「家でじっとしているより来た方が楽しい」「目的を持ったら何でもできる」と言うようなお話を聞かせて頂きました。コロナの中で休講があったそうで、老大有には行けず、おしゃべりや笑う機会が少なくなっていたそうです。元気を出すための一番の薬は笑うことだとされており、こういう機会を作っているのが老大有だと思います。また、私は今回の実習で、高齢者とはこんな人だと決めつけるのではなく、個人個人に暮らしや多様性があり、きちんと相手のことを理解して関わることの重要性に改めて気づくことができました。傾聴する態度を忘れず、思いやりのある看護師になりたいと思います。今回、人生の大先輩からお話を聞くことができ、とても貴重な時間になりました。」

他の学生からは、「好きな事や趣味を授業として受け、同じ地域の方と共通したことでお話をすることが生きがいであるということが分かりました」とか、「授業を受けている時の表情はとても生き生きしていて本当に楽しそうでした」などなど、看護学生たちは、皆さんの学ぶ姿をみて、そして話をしてみて、元気で楽しそうな老大有生活の実際を感じることができた様です。

私は、そのことは、高齢者の健康と福祉に貢献する老人大学の役割そのものだと思っています。

嬉しいことに、今期は3年ぶりに、本講座を始め、リーデンローズでの入学式や、秋晴れのもとでの日本一の学生祭、などの行事も含め全て、年間を通して老大有の日常を過ごすことができ、みなさんが先生の手ほどきを受けてお友達と一緒に学び、おしゃべりし、笑い合えたことは、かけがえない大切な時間だったと思います。本当に良かったと思います。

さて、多くの皆さんはすでに来年度、第53期の出願をされたことと思います。ご承知のように

来期は、老創立50周年の記念すべき年になります。

ここで皆さんに嬉しいお知らせがあります。既に新聞でも報道されましたが、

昨年、創立から50年間の老創の歩みを整理して、一般財団法人「生涯学習開発財団」が主催する「令和4年度 第3回松田妙子賞」に応募しました。「松田妙子賞」とは、その顕彰規定に、新たな可能性をひらく生涯学習の活動を検証します。社会の進歩・発展に貢献する活動を行なった個人、企業、団体のうち、当財団が特に優れていると認めるものを表彰するとあります。その第3回松田妙子賞に、私たちの福山市老人大学が選出されたのです。

このことは、半世紀もの間、連綿と続いてきた老創の営みが評価されたものであり、この間、老創に関わって下さった全ての方々のご尽力が認められたものと思っています。

これは、先日、2月10日、東京の財団事務局にて授与式があり、私が理事長からいただけてきたものです。本当に誇らしい気持ちで受け取って参りました。

半世紀前に福山市が、高齢者の福祉施策として県内に先駆けて設立し、この間、11万人を超える市内の高齢者が学んできた老人大学。

講師の先生や地域・市民の方々を始め、この間老創を支えて下さった多くの関係者の皆さんに感謝しながら、50周年はみなさんと共にお祝いをしたいと思います。そして、このことを節目に、さらに歩みを止めることなく、前進して参りたいと思います。老人大学の一層の充実・発展を図っていく決意を申し述べ、今年度を修了するにあたっての式辞といたします。

2023年（令和5年）2月22日

福山市老人大学 学長 飛田洋悟